

エルサルバドルにおける「ものづくり」教育の現状

発表者氏名：	中村 晋太郎
所属学校種：	山口県立岩国工業高等学校
派遣職種：	コンピュータ技術
派遣国：	エルサルバドル
派遣先：	サンサルバドル国立工業高等学校



キーワード：ものづくり・基礎学力・ロボット

発表要旨：

中米エルサルバドルの国立工業高等学校にコンピュータの教員として派遣されていました。JICAからの派遣要請として、LINUXというソフトの授業における利用活性化が求められていました。しかし前任のボランティアの方のご尽力もあり、LINUX教材は授業の一部として既に定着していました。また、なにより現地担当教員の技術指導に対する自信とそれに対する努力を感じていましたので、技術偏重の指導よりも、生徒学力の底上げと学習への興味付けが、ボランティア活動の中で可能であるかを考えるようになりました。

現地では、以下に示す3つのテーマを軸に活動をしてきました。

- 基礎学力の強化。
- 自動制御教材を学習するための教室の整備、ならびに現地パートナーとの教材研究。
- 各種ロボットの製作。
- 基礎計算力の強化。

着任早々驚きを感じたのは、生徒が簡単な四則計算をするのに、電卓を使って計算している姿でした。「100-35=」などの計算に電卓を使っていました。基礎学力の重要性をいまさら人に説く必要はありませんが、将来、工業生産活動に携わる人物が、論理的に思考するためのトレーニングを放棄しているように、私の目には映りました。

そこで、毎日1年生の実習の始め15分で算数のドリルのテストと自己採点を行いました。もちろん1年程度のわずかばかりのトレーニングで、生徒が自身の実力の向上を実感できるとは思いませんが、10年先で、私に関わった人たちが基礎学力の重要性を感じてくれたらと考えていました。

- 自動制御教材を学習するための教室の整備、ならびに現地パートナーとの教材研究。

自動制御を学習できる教材の一部をJICAより購入してもらい、出来るだけ多くの生徒が学習の機会を得ることができるように専用の教室を準備しました。ちなみに自動制御とは、人間が行う作業ならびに判断を整理し、コンピュータを中心とする装置で、その仕事をさせようとするものです。

私自身もその教材そのものを使用した経験がありませんでしたが、授業の担当予定の現地教員と一緒に教材研究をしました。

- 各種ロボットの製作

派遣された学校では、年に1度、学習の成果を発表する展覧会が行われていました。そこで蜘蛛型ロボットを製作している生徒たちと一緒にロボット製作を行いました。

そのほか、いろいろな回路やアームロボット等の製作を通して、「ものづくり」の楽しさを生徒と共有しました。

2年という時間は決して短くなく日本の職場に穴をあける恐怖はありましたが、エルサルバドルで感じたことは、今大きな宝となっています。



